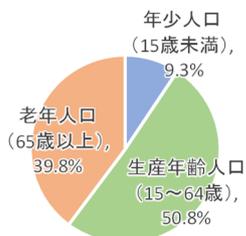


今岡金屋 (いまおかなや)

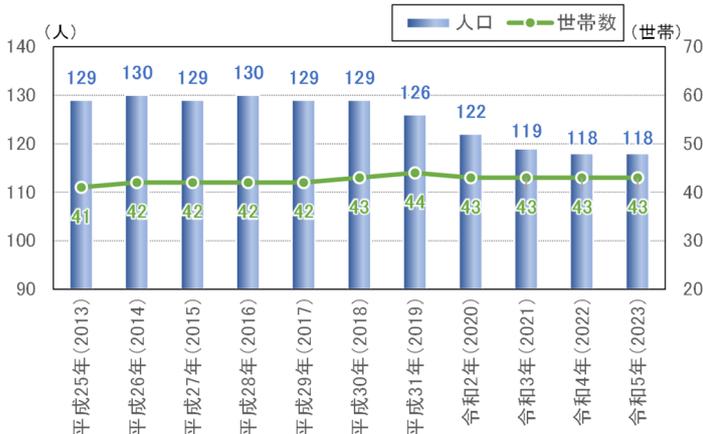
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	118人
世帯数	43世帯
高齢化率	39.8%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落は、熊谷川が岸田川に流れ込む合流点付近に位置し、熊谷川を挟んで北側が今岡、南側が金屋で、いずれも山が迫る農山村である。熊谷川沿いに県道久斗山今岡線が走る。

地名由来 金屋の地名は鋳物師の集団が多く住んでいたことが由来と思われる。今岡は、昔は「はちや村」と呼ばれており、八屋と書いたが、村名の由来は不明。江戸時代初期に今岡と改めているが、その理由も明らかではない。(「たじま地名考」日本海新聞)

歴史等 近世は、両村とももとは因幡国鳥取城主宮部氏領であり、うち金屋村は慶長6年(1601)に同国若桜藩領となる。その後は、いずれも慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、寛永20年(1643)幕府領、寛文8年(1668)からは豊岡藩領となった。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は、今岡村108石余・金屋村73石余。

明治22年(1889)温泉村の大字となり、昭和2年(1927)からは温泉町の大字となる。明治24年(1891)の戸数・人口は、今岡村は戸数16、人口男40・女36、金屋村は戸数18、人口男53・女43。今岡と金屋が一集落になったきっかけは、明治31年(1898)に両村が一衛生組になったことや、明治41年(1908)の金屋須賀神社の今岡熊野神社への合祀などがあげられる。両村は熊谷川の氾濫の被害を度々受ける地域であり、協力して復興にあたる機会が多かったことも関係すると思われる。最終的に今岡金屋村になったのは、昭和初年頃とされるが明確ではない。

これまで把握している文化財

文化財の件数 34件 (うち指定等文化財 0件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等	
有形文化財	建造物	建築物	0	13	
		石造物	0		
		工作物・その他の構造物	2		
	美術工芸品	彫刻	10		
		絵画	0		
		工芸品	0		
		書籍・典籍	0		
無形文化財	無形の無形文化財	古文書・歴史資料・考古資料	1	0	
		音楽	0		
		演劇	0		
		工芸技術	0		
		その他の無形文化財	0		
		信仰の場	2		
		祭具	0		
民俗文化財	有形の民俗文化財	民具	0	8	
		その他の有形の民俗文化財	0		
		年中行事・民俗芸能	3		
		民俗技術	0		
	無形の民俗文化財	食文化	0		
		民間説話・俗信	3		
		その他の無形の民俗文化財	0		
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡	6	13	
		古墳・その他の墓	4		
		城館跡・寺社跡	2		
		街道・古道等	0		
		戦争遺跡	0		
		その他の遺跡	0		
		山岳・高原・丘陵	0		
	名勝地	海岸・海浜・島嶼	0		
		河川・滝・溪谷・湖沼	0		
		公園・庭園	0		
	動物・植物・地質鉱物	その他の名勝地	動物		0
			植物		1
			地質鉱物		0
文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	0	0		
伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等	0	0		



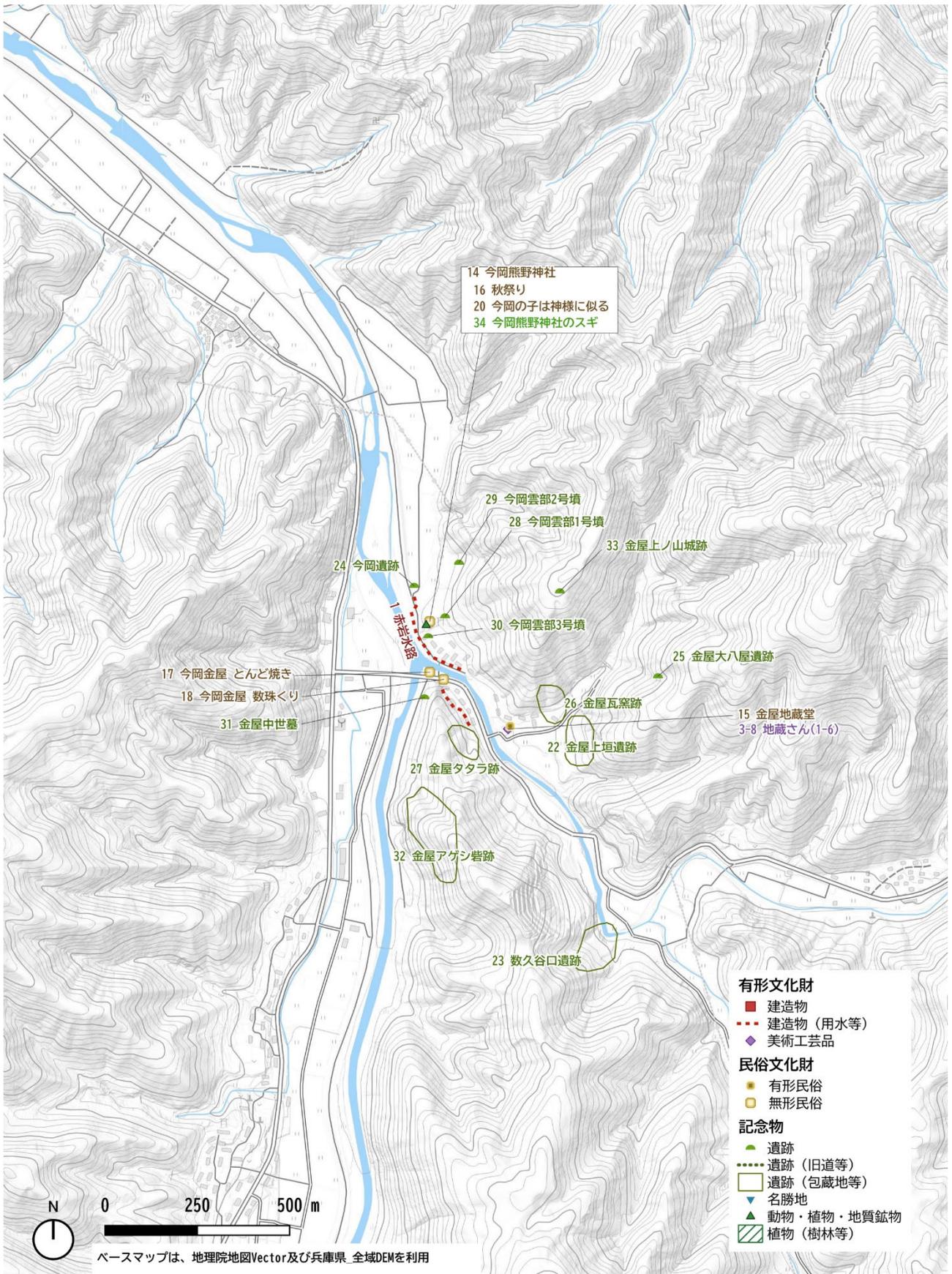
雲部用水



今岡熊野神社

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

4-09 今岡金屋

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
工作物・ その他の 構造物	1	赤岩水路	近世初期に築造された水路。水路延長 2,400m、灌漑面積 15.00ha。取入口は岸田川、排水口は今岡字不動窪。
	2	雲部用水	今岡部落誕生と同時期に築造されたと思われる水路。水路延長 540m、灌漑面積 1.70ha。取入口は熊谷川、排水口は岸田川合流点。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要	
彫刻	3	金屋地藏堂の地藏さん(1)	75×35cm の石像。地藏堂中央に位置する舟形光背衲衣立像のご尊像。別石蓮華請花の台座に立つ。右手に蓮華、左手に宝珠をもつ。光背右に宝暦 13 年 (1763) 3 月 14 日建立の銘、左に「山田村為父母追福也恵輪尼」と銘があり、江戸中期の物悲しい農家の姿を彷彿させる。但馬六十六地藏尊霊場の第 5 番。	
	4	金屋地藏堂の地藏さん(2)	地藏堂中央のご尊像の左隣に位置する。舟形光背地藏尊坐像。うす肉彫り、共石畧蓮華座。57×40cm。風化は著しく、両手の印相も不明である。江戸時代初期のものと思われる。	
	5	金屋地藏堂の地藏さん(3)	地藏堂中央のご尊像の二つ左隣に位置する。丸彫衲衣立像石仏合掌形、頭部を失って代用の丸石がのせてある。40×20cm。江戸時代初期のものと思われる。	
	6	金屋地藏堂の地藏さん(4)	20×10cm の石像。地藏堂内に安置される石像の左から二つ目のもの。	
	7	金屋地藏堂の地藏さん(5)	20×15cm の石像。地藏堂内に安置される石像の一番左側のもの。	
	8	金屋地藏堂の地藏さん(6)	30×40cm の石像。2 体が彫り出されている。地藏堂中央のご尊像の右隣に位置する。	
	9	金屋地藏堂の地藏さん(7)	57×40cm の石像。地藏堂内に安置される石像の一番右側のもの。	
	10	今岡薬師堂の毘沙門天	85×25cm の木像 (毘沙門天像)。薬師堂内に祀られている 3 体の像の一番左側のもの。紅の塗りが落ちている。	
	11	今岡薬師堂の薬師如来	75×35cm の木像 (薬師如来像)。薬師堂内に祀られている 3 体の像の真ん中のもの。顔と胸は緊迫であるが、全体の塗りが剥けている。	
	12	今岡薬師堂の不動明王	80×25cm の木像 (不動明王像)。薬師堂内に祀られている 3 体の像の一番右側のもの。本体は紅の塗りであるが、塗りが剥けている。	
	古文書・ 歴史資料・ 考古資料	13	今岡金屋 字限図	村所有。

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	14	今岡熊野神社	祭神は天忍穗耳尊、素戔鳴命。いつ頃から祀られたかは明確ではないが、古老によると 1 千年程前、堂の岡の岩穴に氏神として祀られていたものらしく、若一王子大明神といわれていた。明治の初めに熊野神社と名を改め、明治 6 年 (1873) に村社となり、同 41 年金屋上に祀られている村社の須賀神社を合祀した。境内には、稲荷神社 (保食命)、椿神社 (猿田彦命) がある。
	15	金屋地藏堂	但馬六十六地藏尊霊場の第 5 番札所。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	16	今岡熊野神社の秋祭り	10月1日に行われる。
	17	今岡金屋 とんど焼き	1月7日に行われる。
	18	今岡金屋 数珠くり	子供会と高齢者が中心に行う。
民間説話・ 俗信	19	寒大師	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p184参照
	20	今岡の子は神様に似る	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p170参照
	21	ねりが水	※『温泉町郷土読本』（昭和42年、温泉町教育研修所調査部編集）p217参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・ 集落跡・ 生産遺跡等	22	金屋上垣遺跡	畑地一帯から須恵器・土師器片多数が出土。
	23	数久谷口遺跡	古墳時代の散布地。土師器・須恵器の破片が散布。
	24	今岡遺跡	遺物の散布地。時代は不明。
	25	金屋大八屋遺跡	奈良時代の散布地で、須恵器が採集されている。遺構は明らかでない。岸田川沿いの金屋から熊谷方向に丘陵を一つ隔てた谷間に立地する。
	26	金屋瓦窯跡	窯跡（生産遺跡）。登り窯式の瓦窯跡で、明治期に操業していたという。
	27	金屋タタラ跡	近世（江戸時代初期）の生産遺跡（鍛冶屋場）。豊岡藩領。江戸時代初期、京都知恩院の梵鐘を鋳造した場所との伝説がある。
古墳・ その他の墓	28	今岡雲部1号墳	古墳時代後期の古墳。横穴式石室を持つ円墳で、戦時中青年団が開墾のために墓石、石室の基底部が残る。
	29	今岡雲部2号墳	古墳時代の古墳。1号墳の北側にある。未盗掘の円墳で、直径9m余り。
	30	今岡雲部3号墳	古墳時代の古墳。八幡神社の裏の丘にある。拝殿建設で破壊され、石室の巨石を石碑の台にしている。
	31	金屋中世墓	中世墓。4㎡の範囲に平たい川石が敷いてある。川石は15×10cmの楕円形のものが多い。
城館跡・ 寺社跡	32	金屋アゲシ砦跡	中世の城館跡（砦跡）。尾根上に削平地（郭）が数段つくられた跡がある。
	33	金屋上ノ山城跡	中世の城館跡。山上に郭・堀切があり、山腹に帯郭がある。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	34	今岡熊野神社のスギ	今岡熊野神社境内のスギ。環境省巨樹巨木林データベースによると、幹周3.93m、樹高35mのもの、幹周3.22、樹高30mのもの、幹周3.35、樹高30mのもの、幹周3.10、樹高30mのもの4本。